

令和5年11月30日

(2023年)

保護者の皆さま

吹田市立佐竹台小学校
校長 西岡 孝

令和5年度 全国学力・学習状況調査の分析について

本年度4月に、6年生を対象として「令和5年度全国学力・学習状況調査」を実施し、9月上旬に個人ごとの結果をお返ししました。また吹田市でも、今回実施した調査結果の概要を吹田市のホームページを通じて公表しております。

この調査は小学校の最終学年のみを対象とした調査であり、教科も国語と算数に限られ、測定されたものは学力の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。そのことをまず踏まえつつ、調査によって得られた課題を明らかにし、その改善に全力を注ぐことが、調査本来のねらいであると考えています。

対象となった6年生には、よりきめ細やかな指導ができるよう取り組みを進めるとともに、学校全体として課題に応じた学力向上につながる具体的な指導法の工夫改善も図ってまいります。各ご家庭におかれましても、以下の分析結果をもとに、今後の家庭学習の指針として、参考にしていただきますようお願いいたします。

1. 調査内容

- ◆教科に関する調査 国語・算数に関する調査
- ◆児童質問紙調査 生活習慣や学習環境・学習方法等に関する調査

2. 調査結果の概要と課題

◆調査結果の概要

国語 全国値を上回っている

算数 全国値を上回っている

◆正答率の低い問題から見える課題について

誤答から、課題を明らかにするために、正答率から課題等について取り上げました。

○できた点 ●課題となる点

教科	領域	正答率から見える課題等
国語	知識及び技能	○目的を意識して、中心となる語や文を見つけて要約することができる。 ○送り仮名に注意して、漢字を文の中で正しく使うことができる。
	思考力 判断力 表現力等	○問題点と解決方法を書く問題では、文章中に提示されたカードやグラフを手がかりにして自分の考えを書くことができる。 ●複数の文章や資料を読んで書かれている内容を理解することや、条件に合わせて自分の考えをまとめることに課題がみられる。

教科	領域	正答率から見える課題等
算数	数と計算	○示された問題を計算して、答えを求めることができる。 ●()を用いた式や、加法と乗法の混合した式が何を表しているのか、式の意味を理解することに課題がみられる。
	図形	○図形の意味や性質について理解することができる。 ●図形の性質を用いて、論理的に考えを進め、説明することに課題がある。
	変化と関係	○伴って変わる二つの数量について、表から変化の特徴を読み取り、知りたい数を求めることができる。また知りたい数量の求め方を式や言葉を用いて書くことができる。 ●百分率で表された割合について、基準量と比較量がそれぞれ何を表しているのか理解することに課題がある。
	データの活用	○「…以上」の意味を理解し、示された表から必要な数を読み取ることができる。 ●複数の組み合わせたグラフを読み、2つのグラフの違いを言葉と数を用いて書くことに課題がある。

3. 教科に関する分析と今後に向けて

国語

本校の平均正答率は全国値を上回っている。

しかし、「思考力、判断力、表現力等」についての記述式の問題は、全国値をやや下回っており、課題が見られたため、以下の点に留意しながら指導していく。

「書くこと」については、長文を読んで、内容や問われていることを理解し、条件に合う文章を記述することに課題がある。文章で表現するには、まず書かれている情報を正確にとらえて整理することが必要になる。情報を様々な視点から検討させ自分の考えをまとめられるようにする。

算数

本校の平均正答率は全ての問題において全国値を上回っている。

どの項目についても全国値を上回っており、良好な結果であった。

しかし、数学的に記述(説明)することに課題があり、以下の点に留意しながら指導していく。

1. 「数と計算」

計算技能を定着する。文章問題では問題の意味を理解して立式できるようにする。

2. 「図形」

図形を構成する要素や性質を理解し、公式を活用して、求め方を文で説明できるようにする。

3. 「変化と関係」

百分率で表された割合について数字が何を表すのか、基準量と比較量を理解し、説明できるようにする。

4. 「データの活用」

グラフを読み取り、自分の考えを表現したり、記述したりする。また理解を深めるためにも、自分たちで調べたデータを表にまとめる。

4. 生活習慣や学習環境に関する調査の傾向と今後に向けて

自分自身のこと	自己肯定感 自己有用感 将来の夢	<p>「自分にはよいところがある」「先生はあなたの良いところを認めてくれている」「将来の夢や目標を持っている」について、全国値を上回っている。「友達関係に満足している」「困りごとや不安があるときに先生や学校にいる大人にいつでも相談できる」についても全国値を上回っている。また「学校へ行くのは楽しい」についても全国値を上回っている。登校することを前向きに捉えている児童が多い。自己肯定感・自己有用感も全国値を上回り、将来に向けて夢や希望を持つ姿がみられる。</p> <p>「人が困っているときは、進んで助ける」「人の役に立つ人間になりたい」については全国値を下回っている。「集団作りワーク」などに取組み、豊かな人間関係を構築しやすい環境を整えていく。</p>
家庭生活 学校生活	生活習慣	<p>「就寝時間については決まっている」については全国値とほぼ同じ。「起床時間については決まっている」「朝食を毎日食べる」については全国値を下回っている。家庭と連携し、規則正しい生活習慣をめざす。</p>
	家庭学習	<p>「家で、自分で計画を立てて勉強をする」については、全国値を上回っている。また、「平日、学校の授業以外にどれくらいの時間勉強しているか」に対し、8割程度の児童が「1時間以上勉強をする」と回答した。しかし、「全くしない」と回答している児童もあり、全国値を上回っている。</p>
	読書	<p>「読書は好き」については全国値を上回っている。また、家庭にある書籍の冊数でも全国値を上回り、読書ができる環境がある。朝や図書の時間の読み聞かせで、本と触れ合う機会が多く、読書が好きな児童が増えているのは環境が整っていることから考えられる。</p>
	ICT機器	<p>「5年生までの授業でICT機器の使用頻度」について、「週1回」と回答した児童が一番多く、全国値を下回っている。「学校の授業時間以外でICT機器を勉強のために使用する」については全国値とほぼ同じ回答である。ICT機器の使用については、11月から「デイリー健康観察(デイケン)」の導入で毎日使用している。授業でもムーブノートやオクリンカードを使用して児童の考えを共有している。動画機能で体育の時間に身体の動きを撮影して確認したり、生活科・理科の観察などで使用していく。</p>
地域や社会	地域行事 地域貢献	<p>「今住んでいる地域の行事に参加している」は全国値とほぼ同じ。また「地域や社会をよくするために何かをしてみたいと思いますか」は全国値をやや上回っており、地域や社会に対して関心の高さがうかがえる。</p>

5. 今後の取り組みについて

自己肯定感・自己有用感を高めるために

自分自身のこと

「普段の生活の中で、幸せな気持ちになることはどれくらいありますか」は今年度から新設された質問で、肯定的回答は全国値より上回っています。2023年3月に文部科学省からウェルビーイング（「良好な状態」「心身ともに健康で、持続的な幸福な状態」）の向上が掲げられ、子どもたちの抱える困難が多様化・複雑化する中で、一人一人のウェルビーイングの確保が求められています。

本校においても学校生活で児童が主体的に活動できる取組みを行い、さらにウェルビーイングを向上させることをめざします。

また、本校では、昨年度からインクルーシブ教育に取り組んでいます。インクルーシブ教育とは障がいのある子とない子が共に学ぶと考えられていますが、もう少し広い意味で多様な差異を持っている人たちが共に生きていくには、どうすればよいのかを考えています。

3年生から6年生までの全クラスがインクルーシブ教育の授業を行い「全ての人が住みやすい社会」について考えています。

家庭生活・学校生活

家庭学習で全学年において自主学習を推進しています。

『目指せ!! 自主学マスター』の掲示板にノート書き方やまとめ方などのモデルを示すことで、自主的・計画的に学習に取り組むことの態度の育成をめざしています。また、各学年のノートを定期的に掲示することで、自己達成感や自己有用感につながることもねらいとしています。

食育の授業では、栄養三食や朝ご飯の大切さについて定期的に学習を行っています。

1学期の生活アンケートでは朝ご飯が大切だという回答が増えています。今後とも規則正しい生活習慣の確立を学校でも呼びかけます。

学校では自己肯定感・自己有用感を高めるために、学習面・生活面から取り組んでいきます。

ご家庭でも、規則正しい生活習慣をはじめ家庭学習の習慣など、児童の自立と自主性の向上のため、ご理解とご協力をお願いいたします。